

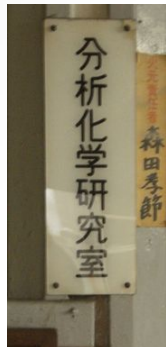
有機合成化学研究室(207B室)



超分子化学研究室(206B室)



物質生命化学研究室(227A室)



分析化学研究室(224B室)

工 化 時 報

第30号



Since 1938

工化会会長あいさつ

工化会会長 深澤 豊史

(昭和58年博士修了)



新政権への期待を抱いて幕開けした平成25年、思い切った金融緩和策が功を奏したアベノミクスや念願であった富士山の世界遺産登録、2020年のオリンピック・パラリンピックの東京招致の実現など良い風が吹き始めた気配は実感できました。このようにグローバルな観点から今まであまり知られていなかった我が国の国民性や文化への高い国際評価が顕れたことは、外交努力の賜物とも思われます。しかし、景気回復が一部の大企業のみには行渡らないことや持ち越されてきた周辺国との領土問題に絡んだ外交上の問題や異常気象による天災や原発の問題など、不安も多々残った年でもありました。

工化会では、新事業のひとつとして前年度に発足した「マネージャーサロン」では、発足直後、会員の鈴木義弘氏(60年卒)が衆議院総選挙にて当選され、尾島氏(49年卒、工化会副会長)による在学生の工場見学(大正製薬)が行われました。また、新卒者の就活に関しても会員の会社よりご採用頂くなどの実績もみられ、今年の2月に行われた毎年恒例の物質応用化学科就職セミナーでは、当サロンの専用のブースも設けられました。発足後一年目にしてこの様に上々のスタートが出来ましたことは、会員の方々の業界における影響力と母校そして本学科への愛着によるものであり、豊富な人脈と固い絆を有する工化会の潜在力を改めて認識致すとともに皆様方の工化会へのご関心に敬意を表します。今後は、在学生の就職に対する意識改革なども視野に入れ、講演会の開催などを通して多角的に就活を応援して行きたいと考えて居ります。当方では本サロンへのお誘いを各研究室の先生方へお願いするなどして行って居りますが、未だ一部の工化会会員の方々にしか御案内出来ていない状況です。これからは色々な紹介窓口を通して、皆様方にご参会をお願いして行きたい

と考慮して居りますので、何卒よろしくお願ひ致します。

平成20年より理工学部長二期目としてご活躍の本学科の滝戸俊夫教授は、昨年(平成25年)の9月に日本大学副学長に就任されました。お祝いのパーティーは理工学部校友会主催・工化会後援により、理工学部執行部、校友会および工化会役員の方々の出席により「ホテル聚楽」にて盛大に催され、工業化学部会としての工化会の存在感がより一層高まりました。

若年齢層の会員諸氏への工化会のPRの一環として、卒業記念パーティーへの支援が平成25年度の総会で承認されました。そして今年(平成26年)の3月25日に「ハイアットリージェンシー東京」にて、短大と合同で行った卒業記念式典(伝達式)の後に、卒業記念パーティーを工化会後援のもとに工化会役員の方々も集い300名を超える参加者により盛大に催す予定です。

皆様方のご支援を原動力として、工化会は常に物質応用化学科在籍学生を力強く支えています。このたびはこの充実した事業活動とその実績をご理解いただきたく、上記報告をもちまして工化時報第30号の挨拶とさせていただきます。今後とも何卒宜しくご支援のほどお願ひ申し上げます。

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史



PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-8585 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL: 048-561-5221

E-mail: SOUMU@showakvc.co.jp

ホームページ <http://www.showakvc.co.jp/>

昭和53年卒 代表取締役社長 池本俊一

平成25年度就職状況



応化進路指導委員会
委員長 清水 繁

進路指導委員会報告

「平成25年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査(12月1日現在)厚生労働省・経済産業省との連携による集中支援策の実施」によると、大学等の就職内定率は、大学(学部)は76.6%(昨年同期比1.6ポイント増)とのことである。当学科の同時期の卒業予定者内定率は、学部74%、大学院82%になっている。おおむね平均レベルにあると言えよう。しかしながら、文理別就職内定率では、文系74.8%(昨年同期比0.9ポイント増)、理系85.0%(同4.8ポイント増)という統計が発表されているので安心してはられない。とはいえ、理系の内定率が昨年より大幅増であることは、着実に理系求人も増加していることがうかがわれる。

企業が求める5大能力は、「コミュニケーション能力、主体性、協調性、チャレンジ精神、誠実性」。さらに近年、大学生にもとめるスペックが大幅に上昇しているとも言われている。これらの能力は一朝一夕で身につくものでもなく、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動、インターシップなどの経験ともちろん学業が大切なものとなる。また、就職活動に苦戦する学生の特徴は、「異なる世代の人、異なる価値観との接触が少ない」、「学生時代に力を入れたことが少ない」、「答えを他人に依存してしまう」などで、自発性のない学生だそうだ。学部では、全学年に渡って本格的にコンピテンシー診断および講座を導入し、低学年から意識を高める取り組みが始まった。学科でもこれを活用した指導が必要となるだろう。学生自身については、どのような業種を選択するかはとても重要因子で、ここでのミスマッチが就職活動期間を長引かせてしまう事となる。また、企業との第一接点であるエントリーシート。この書き方もその後の勝敗が決まってしまうと言っても過言ではない。コンピテンシ

一診断を参考に、成果の出る行動特性を理解し、自己認識と共に優れている所をさらに伸ばす努力が必要とされ、それを表現できる実力が要求される。次年度からの就職活動は、活動期間がこれまでより短くなり、短期決戦型に移行する。卒業研究真っ只中の時期に就職活動を行わなければならない。教員のサポートはもちろんのこと、学生自身の努力もさらに必要とされる。

第8回物質応用化学科就職セミナーを平成26年2月6日に開催した。今回のトピックは、「マネージャーサロン」に参加していただいたことである。これまでも、工化会にはご支援いただいていたが、今回は就職支援活動もしていただいた。回を重ねるに従い充実した催し物となってきたが、この会を通じて少しでも学生の意識を高めることができ、さらには内定率が上昇する効果を期待したい。



第8回物質応用化学科就職セミナー開催風景

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル

 株式会社 **三栄興業**

〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 3-347

志と覚悟・情熱 60年卒 鈴木 義弘

TEL 048-955-1632 E-mail : sanei-k@misato-net.com

ホームページ : <http://www.misato-net.com/3ak/>

滝戸俊夫理工学部長の副学長就任お祝い

去る平成25年12月12日(木), JR御茶ノ水駅に程近いお茶の水ホテル聚楽において, 滝戸俊夫理工学部長が副学長に就任されたことをお祝いする会が挙行されました。本会は例年定例で開催されている理工学部と校友会の連絡会/顧問・相談役会懇親会を兼ねて行われました。会には事務局局長, 事務局次長, 事務長, 各課課長, 学部次長, 短期大学部次長, 理工学研究所長, 学務担当, 学生担当, 広報担当, 大学院担当, 就職担当, 図書館長, 各学科主任, 各専攻主任, 短期大学部各学科長を含め理工学部のお歴々が45名, 校友会からは会長, 副会長を始め, 相談役, 顧問, 会員諸氏, 工化会の役員32名を合わせて65名が駆け付けました。

会は鳥海清治校友会総務副委員長の司会で進行し, 早川清一校友会会長のご挨拶に続き, 我らが深澤豊史工化会会長が祝辞を述べられ, 越智健二工化会顧問からは記念品が, 紅一点であった高田昌子工化会庶務委員からは花束が滝戸学部長に贈呈されました。これに対して滝戸学部長からは答礼挨拶として, 副学長就任にあたり, 就職を含む学生と保健体育審議会を担当されることを報告され, その熱い思いを吐露されました。乾杯は加藤和英事務局局長が務められ, 華々しく宴が始まりました。

本記事に寄せて, 祝賀会当日の様子を撮影した写真を披露しますが, 会は盛況の内に終了したことを申し添えるとともに, 滝戸学部長の益々のご活躍を期待するものであります。

文責 庶務委員 栗原清文, 高田昌子



就任を祝う会にて

カリキュラム改正の概要

近年、若者たちの理科離れが問題となっており、その原因のひとつとして学校教育における実験の量、質の低下が指摘されています。そこで物質応用化学科では、化学において実験がいかに重要であるのか、また実験と講義ならびに各分野の実験どうしがどのように関連しあっているのかを理解できるように、これまでの実験カリキュラムを大幅に見直すことにしました。そのポイントは以下の5点です。

- 基本的な器具の扱い方から高度な実験までを系統立てて学べるようにする。
- 講義で学んだあとに実験に臨めるような、講義と実験を連携させたカリキュラムとする。
- 物化、無機、有機、生命の各分野が互いに関連しあっていることを実感できるカリキュラムとする。
- 化学系学科の学生として必ず学ぶべき実験を盛り込む。
- 学科専任教員に加えて実験専門の教員を配置し、よりきめ細かい実験指導を行う。

平成26年度の2年生から、この新しい実験カリキュラムが本格的に始動します。

また、大学院では、昨年4月よりカリキュラムの改正を行いました。今回の変更の目的は、大学院に進む学生の意識が年々脆弱になっていることへの反省から、入学する院生に専攻の方針を明確に示し、意識強化を行なうことです。具体的な改正点は以下の通りです。

- 特論を必修と選択に分け、物質応用化学専攻に特徴的な特論を設置する。
 - ・ 応用化学特別講義 I では1年前期に専攻全体の概論をオムニバス形式で講義する。
 - ・ 応用化学特別講義 II～IV では専攻の3領域を代表する先生方に講義を依頼する(物質化学:岩村秀先生, 応用化学:角五正弘先生, 生命化学:貝沼圭二先生)。
 - ・ 3分野での特論のバランスを考慮し、関連が少ない特論は統合あるいは廃止する。
- 応用化学特別演習では、研究計画書を作成させて大学院研究への自覚を促し、計画発表会で進捗度をチェックする。
- 学部専門科目と特論が密接につながる教育体系を目指して、関連づけを明瞭化する。

この改正は来年度で完成します。これにより近い将来、広い視野を持ち、修得した科学的知識、技術を活かして社会に貢献する意欲のある人材が次々輩出されることを期待しています。

生命・物質化学科:学科名変更と新カリキュラム

日本大学短期大学部(船橋校舎)は1950年(昭和25年)3月に建設科,工業技術科,応用化学科が設置され,中間技術者の育成という社会からのニーズに的確に対応しつつ,多くの卒業生を輩出してきました。わが応用化学科は2012年(平成24年)4月,60年以上維持してきた学科名を初めて改称して「生命・物質化学科」とし,(1)地域総合科学科的カリキュラム,(2)グループ担任制,(3)1年後学期からの主専攻選択制,(4)キャリア形成支援を4つの柱とした新教育課程をスタートさせました。主専攻としてはマテリアル科学とバイオ・環境科学という2分野を設けています。

また,2年間を通してゼミナール科目を開講し,入門ゼミナールでは学習に必要な基礎的学力と技術を修得し,基礎ゼミナールでは卒業後の進路について考え,発展ゼミナールでは説明力やコミュニケーション能力の向上を図り,卒業研究では専任教員の指導の下で各自のテーマについて調査・研究を行います。特に1年後学期の基礎ゼミナールでは本学科の卒業生をお招きして講話頂くことで,キャリア意識の向上に効果を上げています。また,初めての卒業研究発表会が2014年(平成26年)1月25日に行われ,全学生がポスター発表を行いました。卒業研究の指導には理工学部一般教育化学教室の先生方のご助言も頂き,優秀な発表をした学生には工化会よりポスター賞が授与されることになっています。

卒業研究発表会

(ポスター発表) 風景→



←基礎ゼミの
風景

遺伝子組換え実験スタート！

1993年の山中健生教授就任以来の生命系研究室の念願であった「遺伝子組換え実験」が2012年4月に可能となった。理工学部において遺伝子組換え実験を行うためには、遺伝子組換え実験安全委員会の設置と遺伝子組換え実験室の指定が必要である。2011年度に環境が整い（前年度の物質生命化学研究室の新設により生命系が3研究室になったこと、学部長が滝戸教授であり理工学研究所長が澤口教授であったことなど）、理工学部遺伝子組換え実験安全委員会準備委員会が発足し、また、224Aの遺伝子組換え実験室として整備が完了した。そして、2012年4月に理工学部遺伝子組換え実験安全委員会が発足し、理工学部物質応用化学科における遺伝子組換え実験がスタートした。

現在、榎先生グループのシアル酸転移酵素の研究、谷川先生グループのD-アミノ酸関連酵素に関する研究、小職のファージディスプレイに関する研究などが鋭意進行中である。2号館内で遺伝子組換え実験ができることのメリットを、教育的にも研究的にも十二分に活かしていきたい。

最後に、歴代の教室主任の先生方（栗田先生、矢野先生、故安江先生、秋久先生、澤口先生、滝戸先生、西宮先生）をはじめ遺伝子組換え実験の実現に向けてご高配を賜った関係諸氏に拝謝するとともに、生命科学領域の研究のさらなる発展を期して、筆を擱く。

（環境微生物学研究室 西村克史）



左 遺伝子組換え実験室入口、右 同内部の様子

平成25年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生の学会賞の受賞，スポーツでの活躍をご紹介します。(集計期間：平成24年2月～平成25年1月)

【教員の部】

- ・澤口孝志 (高合) 高分子学会，フェローアカデミア
- ・遠山岳史 (無機) 第36回日本大学理工学部，学術賞
- ・吉川賢治 (分析) 第30回イオンクロマトグラフィー研究懇談会，イオンクロマトグラフィー奨励賞
- ・須川晃資 (超分子) 第32回固体・表面光化学討論会，優秀講演賞

【学生の部 (学術部門)】

- ・石ヶ谷卓也(無機) 日本無機リン化学会，第10回若手優秀研究発表賞
- ・高橋あおい(無材) 第29回日本セラミックス協会関東支部研究発表会，ポスター賞
- ・板津祐太 (化工) 分離技術会年会2013，分離技術会年会学生賞
- ・中西晋伍 (無機) 理工学部学術講演会，優秀発表賞
- ・石井一隆 (有合) 理工学部学術講演会，優秀発表賞
- ・大橋幹矢 (高合) 理工学部学術講演会，ポスター賞受賞
- ・石川優香 (高合) 理工学部学術講演会，ポスター賞受賞
- ・上岡理央 (超分子) 理工学部学術講演会，ポスター賞受賞
- ・三輪達哉 (2年) 第17回理工学部英語弁論大会，優勝
第44回日本大学英语弁論大会，準優勝
- ・内藤 燿 (短1年) 第17回理工学部英語弁論大会，準優勝

教員の学会理事任命報告

澤口孝志教授が平成26～27年度 日本化学会役員 (理事) に任命されました。

静電容量型変位計・エアベアリングスピンドルの輸入

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-10-39 (日総第5ビル10F)

電話 (045) 311-8651 ファクシミリ (045) 311-8652

ホームページ：<http://www.p-andc.com>

昭和35年卒 代表取締役 安達昭郎

クラス会・同窓会の報告

第3回(平成25年)工業化学科昭和49年、 短期大学部昭和47年卒業生・大学院昭和51 年修了生同期会(通称:四駆プラス)開催報告

第3回四駆プラス会は平成25年4月6日(土)に居酒屋プラザプラスワンで行われた。第1回目に比較して参加人数が半減しましたが、大学時代からの紆余曲折の軌跡に花が咲き盛り上がりました。第4回目は平成26年4月5日(土)16:00プラザとなった。尚、同期へのご案内往復ハガキの作成と郵送(実費)は、工化会名簿担当(伊掛先生)のサービスです。感謝申し上げます。



同期会発起人[青木壮慈朗(油化), 岡田雄二(高工), 尾島光春(分析), 菅野昭(油化), 佐藤憲一(有物), 澤口孝志(高合), 志村修司(燃料), 中山郁雄(有物), 野原孝司(固触), 堀尾良宏(固触), 元木英二(無機), 山中光徳(化工), 和久井弘子(固触)]

問い合わせ先(澤口) : sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp

2014年高分子合成同友会開催のお知らせ

高分子合成研究室は1972年に設立されてから2014年3月までに1,000名を越える卒業生を輩出しており、本年43期目の卒業研究生を迎えた。第12回目の総会は2013年11月9日(土)駿河台校舎1号館にて鈴木義弘衆議院議員(昭和60年学部卒)からの講演もあり、約70名の参加により大盛況であった。大学院生の研究発表会や参加者の交流を目的としたイベントも同時に開催した。本会は豊富な人材

ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願っている。興味ある方は研究室（澤口 sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp 03-3259-0819；萩原 hagiwara.toshiki@nihon-u.ac.jp -0433；星 hoshi.toru@nihon-u.ac.jp -0825；）にご一報を！第13回同友会総会は2014年11月8日(土)駿河台校舎1号館にて開催され、年度末には澤口孝志教授の最終講義を計画している。



(同友会役員 関口優紀会長，澤口孝志，古橋雄二及び片桐正志副会長，岡崎幹事長，三柴晶子及び北谷戸尚会計，新国禎倅及び小笠原守人監査)

秋友会・秋久俊博教授退職記念祝賀会の開催報告

秋久俊博教授は、平成25年3月末に定年退職を迎えられました。そこで卒業生一同でお祝いをするべく、平成25年5月25日(土)に、お茶の水ホテルジュラクにて秋久俊博教授の退職記念祝賀会とあわせて研究室同窓会である秋友会(しゅうゆうかい)を開催いたしました。当日は秋久先生と奥様を主賓としてお迎えし、秋友会会長の清水尚登様を含め卒業生72名、在校生(秋久先生の指導を受け大学院へ進学した学生)22名の合計96名で会を開催することが出来ました。企画当初はもっと大きな会場で、との思いもありましたが、秋久先生のお人柄か、卒業生との懇親を深めたいとのご希望もあり、大学から近く馴染み深い会場での開催となりました。そのためか、卒業生との距離間も良く、秋久先生と卒業生の会話が弾む、活気のある祝賀会になりました。久しぶりに集まった卒業生は教育機関や企業で活躍し、秋久先生の指導を受けた学生が社会にでて力を発揮している様子が伝わってきました。花束贈呈の際には、退

職後も化学者であり続けて頂きたいという思いをこめて“電子雲3次元ガラス彫刻模型”(立方体のガラスに1s~4f軌道までの電子雲が彫刻されたもの)をあわせて贈呈いたしました。受け取られた先生は大変喜んでいらっしゃるよう見えしました。閉会后、秋久先生は気の置けない方々と二次会へと繰り出されていき、会は盛況のうちに終了いたしました。思えば、私が卒研生として研究室(当時は“有機工業化学研究室”でした)へ入り、天然物のイロハを教えていただき、助手として採用されてから秋久先生が退職されるまでであったという間だったように感じます。生物資源化学研究室は、平成25年度から新しい体制で出発することとなりましたが、その根幹には、秋久先生が築かれた“天然物化学”研究の素地があります。今後は、古きに固執することなく、しかし古きに敬意を払いながら、新しい研究を進めていこうと思っております。



(文責: 物質応用化学科 専任講師 浮谷基彦 平成9年3月卒業)

駿河台キャンパスに10号館が誕生

平成25年4月、まちづくり工学科の設置に伴い、駿河台キャンパス9号館にまちづくり学科の教室、製図室の整備が始まりました。これに伴い本郷通りを挟んでウェルトンビルの正面のビルを購入し、10号館としました。10号館は理工学部の事務(庶務、会計、管財等)が集約された事務棟となり、効率的な運用を行っています。



工化時報ではOB会・クラス会報告の記事を募集しております。掲載を希望される方は平成27年1月25日(日)までに下記アドレスまで200~300字程度の原稿をお送りください(紙面に余裕があればお写真も掲載します)。E-mail: Jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp **【掲載料は無料!】**

工化会賞受賞者の声**平成24年度 70周年記念賞若手研究者支援受賞者**

森 健太郎
(2013年博士後期修了)
無機材料化学研究室卒

私は2013年3月に博士号を取得し、現在は日本大学理工学部に博士研究員(ポスドク)として奉職しており、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(New Energy and Industrial Technology Development Organization: NEDO)のセルロース含有バイオマスの革新的直接液化技術の開発事業に研究員として従事しております。この研究は、私の学位論文である赤色長残光蛍光体の合成と蛍光特性に関する研究とは全くの異分野であります。このため初めの頃は、わからないことばかりで周りの方々に迷惑ばかりをかけてしまいました。しかしそのような中でも、これまで培ってきた実験方法の効率化の経験などは活かすことができました。このような経験から、研究というものは分野が異なっても、蓄積された研究の経験は応用することができるのだと自信を持つことができました。また、新しい分野に身を置くことで、新たな知識を得る楽しさ、そして、全く別の分野の考え方を学ぶことで、これまで学んできた分野の考え方も合わせた広い視野を持って研究に臨むことの大切さを改めて感じるようになりました。このように、複数の分野の研究に携われる機会は貴重であり、これから先の自分にとってこの1年間の経験は大きな財産になると確信しています。

研究に携わり始めた大学4年生の頃から抱いていた、研究職に就きたいという希望は叶いましたが、これから先、より広い視野を持った研究者として社会に貢献できるよう、日々精進していきたいと思っております。

超分子化学研究室所属 関口 紘樹
(平成25年 物質応用化学科卒)

現在、私は光エネルギーを化学エネルギーに変換する人工光合成のなかでも、光により水から酸素を発生させるための研究を行っております。研究に力を注ぐことができるのは工化会の皆様の御支援があつてこそであり、心より感謝しております。これからも、多くの人に支えられていることに感謝しつつ、為せば成るの精神で研究に打ち込み、社会に貢献できるよう努力してまいります。また、工化会の皆様が今後も大学院に進学する学生の御支援を続けてくださることを願っております。

新任紹介

生物資源化学研究室
教授 仁科淳良



民間企業、公務員、公立大学教員を経て平成25年4月より本学に赴任いたしました。私立大学の経験がないということもあり、これまで驚かされることの連続でした。まずは、担当する学生数が非常に多いことについてです。夏には、書店に1学年260名分の教科書を注文したところ、多すぎて数が揃わないといわれて途方に暮れてしまいました。また、少ない人数で多くの学生をサポートする教室事務の方々の努力には事あるごとに感心しています。

着任後1年が経過し、どこに誰がいて、何がどこにあるかをやっと把握する段階まで来ましたが、専門である生命科学研究を遂行できる環境がなかなか整わないのが悩みの種です。一日でも早く助走期間を脱して、授業や研究を通して社会で即戦力として通用する学生を一人でも多く育成する所存ですので、皆様にはご指導方よろしく願いいたします。

物質応用化学科創設80周年記念

平成20年に行われた物質応用化学科創設70周年記念での皆様方のご寄付による「工化記念基金」は、毎年の三事業(若手研究者支援、奨学生支援、奨励賞記念授与)の資金とさせていただいており、80周年を迎える平成30年までの10年間の事業として今年で六年目となり、好評価を得ております。工化会としましては、この十年間の「工化記念基金」事業を四年後の80周年でも是非とも継続させたいと願っており、そのためには70周年同様に大成功を収めなくてはなりません。既に二年前より、「80周年記念準備委員会」を設置し、計画の道筋が練られて居ります。ご承知の通り、二万人にも及ぶ会員の方々の中では同期会や各研究室のOB会など色々なつながりにより結ばれた多数のお付き合いのネットがございます。80周年はこれら皆様方のネットのご協力をより一層仰ぐ必要があると考えており、来る80周年を視野に入れた懇親会やお付き合いの場を積極的に設けていただくように呼び掛け致しております。また、工化会の事業を通して特に若年齢層の会員の方々へのPRにも努力しております。準備委員会では本誌を含め色々な情報媒体を利用してPRに努め、会員の心が一つになり、80周年を迎えられる様、企画して行く所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。

(工化会会長 深澤豊史)

平成25年度工化会事業報告

平成25年度工化会通常総会は、駿河台校舎8号館5階851会議室にて平成25年6月1日(土)午後15時より役員・会員538名(内委任状455名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成24年度事業報告および会計報告、ならびに平成25年度事業計画および会計予算案、役員の改選案の審議を行い、これらを承認しました。また深澤会長より、平成24年12月8日に出席者40名を得て「マネージャーサロン」が発足したこと、学科創設80周年に向けて、創設80周年事業準備委員会を立ち上げたことが報告されました。

通常総会終了後には、本年もホームカミングとして還暦を迎えられる卒業生の皆様もお招きして、5号館1階の学生食堂にて懇親会を開催し、会は盛況の内にお開きとなりました。

さて本年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、駿河台オープンカレッジ2013、駿河台入試フォーラム2013、第14回日本大学理工学部一日体験化学教室、CSTオープンキャンパス2013、第8回物質応用化学科就職セミナー、第7回合格者相談会、物質応用化学科学位記伝達式(新規)ならびに第6回短大ものづくり&サイエンススクールの各後援、工化会独自の講演会の開催、工化会賞の授与が決まりました。

この工化会賞は平成21年度から卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した者を工化会として表彰するものであり、本年度も厳正な審査の結果、大学院生6名、学部生29名、短大生7名を表彰者として、3月25日(火)の学部・大学院・短大の学位記伝達式の際に、賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設70記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象)、奨学生支援(学部の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業予定者で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた者が対象)については、それぞれ、3名、1名、18名に対して支援・授与が行われました。

最後に平成25年度の工化会予算については、予算を經常

会計予算と特別会計予算の2種類作成しており、平成25年度経常会計予算は総額355.2万円で、学生支援事業(13.0万円)各種講演会・行事補助費(87.0万円)、卒業生支援事業(95.1万円)、その他(5.0万円)、次年度繰越金(155.1万円)であり、特別会計予算は総額1324.0万円で、卒業生支援事業(87.0万円)、会費・寄付金郵便振替対応業務(3.5万円)、次年度繰越金(1233.5万円)を計上しています。なお平成25年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

なお、平成25年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要は下記のとおりです。

- ① 4月27日(土)15:00~16:50 役員会
役員71名出席(内委任状19名)
- ② 6月1日(土)15:00~16:00 通常総会
538名出席(内委任状455名)
- ③ 6月2日(日)駿河台オープンカレッジ2013
付属高校生240名が参加
- ④ 7月14日(日)駿河台入試フォーラム2013
高校生361名が参加
- ⑤ 7月27日(土)第14回日本大学理工学部一日体験化学教室
高校生他80名が参加
- ⑥ 8月3日(土)、4日(日)CSTオープンキャンパス2013
高校生919名が参加
- ⑦ 10月3日(木)工化会講演会
講師：工化会会員綾野怜氏(元三菱ガス化学株式会社)
演題：BTレジンの開発
対象：物質応用化学科3年生
- ⑧ 11月3日(土)第6回短大ものづくり&サイエンススクール
地域の方のべ110名が参加
- ⑨ 2月6日(木)第8回物質応用化学科就職セミナー
(本報告を執筆時には終了していませんが、
昨年度は38社の企業と145名の学生が参加)
- ⑩ 2月22日(土)、23日(日)第7回合格者相談会
(本報告を執筆時には終了していませんが、昨年度は2日間で本校入試およびセンター入試(一期)合格者が25組、推薦入学者は52組、計77組(149名)が参加)
- ⑪ 3月25日(火)平成25年度物質応用化学科ならびに物質応用化学専攻学位記伝達式

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿 (平成26年1月31日現在)

昭和16年卒	荻野 堯	昭和33年卒	米田 修一	杉田 松生
津崎 統一	高橋 久雄	伊藤 明	門倉 利夫	西山 孝彦
昭和17年卒	周 永實	永井 滋	野島 秀次郎	西浪 毅
稲垣 達雄	小林 清人	奥野 士郎	鈴木 修	大橋 隆
昭和18年卒	浅川 和昭	加賀 勘之助	昭和36年卒	大村 俊晴
金井 昇介	瀧谷 俊雄	吉田 靖	宇賀治 正名	竹内 栄多
浅谷 公洋	谷川 清	久保田 景一	越智 健二	長嶋 裕
昭和19年卒	中嶋 貞夫	熊谷 祐一	越田 明保	塚田 豊
日暮 忠弘	渡邊 文夫	広瀬 俊雄	横山 樹静	渡部 長幸
脇 幹夫	藤波 篤郎	高木 三郎	飯戸 斌	藤野 裕
昭和20年卒	奈良 富雄	才木 義夫	河内 宗弘	白石 益郎
磯 基道	八田 肇	山内 良夫	高柳 裕臣	木村 次雄
重藤 捨雄	米山 廣保	小林 脩一	黒尾 良康	鈴木 和夫
神本 慶助	米田 虎雄	神保 忠男	佐藤 進	昭和39年卒
杉浦 銀蔵	昭和30年卒	清水 巖	佐藤 貞男	稲見 義子
澁谷 洋平	綾野 恰	西野 武	砂川 憲二	横田 力男
昭和21年卒	白井 徹郎	青山 達也	斎藤 博	亀村 轟
下河原 一恵	笠間 三男	大井 壽	坂本 昌伍	金田 統一
岸 照二	近藤 練太郎	滝沢 幸二	崎下 昌道	原 襄輔
斉藤 光平	金井 孝道	中山 直之	小串 照宗	高松 武生
石川 幸一	古川 新	中辻 賀治朗	松嶋 精一	斎藤 伸之
長崎 行太郎	寺島 賢治	田中 孝彦	松本 規雄	坂口 栄
馬場 和朗	植竹 和也	藤田 亘弘	石井 四郎	山崎 彰
昭和22年卒	大塚 進	柏崎 敏郎	石井 照明	児玉 義宏
大川 襄治	田方 範雄	箕浦 滋	石川 隆夫	寺山 洋子
伊東 達郎	昭和31年卒	齋藤 二郎	川上 進	秋本 幹夫
伊藤 謙	安田 信人	昭和34年卒	村越 英彦	小屋原 英雄
川口 清一	伊藤 ミサヲ	横倉 隆康	炭田 幸宏	松村 政之輔
昭和25年卒	柿澤 正彦	貫井 徳蔵	中村 紀史	神谷 中
吉岡 典照	雁部 敏夫	宮 道夫	直井 蕃	瀬尾 宏
吉田 耕一	吉田 幸三	牛込 力夫	渡辺 鏗治	青木 匡
古館 和夫	綱島 康晴	玉置 憲三	北林 伸一	斉藤 守園
榎田 雄三	高橋 一正	栗原 孝夫	木村 繁夫	斉藤 博之
小林 猛夫	高木 弦	昆野 澄夫	鈴木 善治郎	石井 国昭
池田 富三	小松原 彬	佐藤 忠	昭和37年卒	石川 和正
木根 弘水	神戸 徳蔵	山岸 宏輔	旭 重男	中沢 甫
昭和26年卒	杉浦 允	山谷 保二	伊地知 龍清	中田 博
稲垣 正	川口 國雄	児玉 五男	伊藤 成利	中野 洪
加納 照彦	長繩 な老子	小田切 孝光	井上 靖治	中林 実
川西 正人	長繩 賢	松浦 豊紀	磯崎 昭徳	仲野 一次郎
太田 精一	田中 宏之	大久保 勝弘	奥山 正之	田中 誠悦
棚橋 和弘	田畑 調友	藤森 信正	梶山 秀矩	田幡 安郎
棚池 宏明	尾関 富夫	昭和35年卒	宮沢 武次	藤池 曠子
谷 俊一郎	米倉 久雄	安達 昭郎	駒井 俊雄	奈良木 亨丞
鈴木 信夫	本山 方史	塩澤 進	原 周二	板橋 重光
昭和27年卒	役重 典之	河合 哲次	荒野 健一	富士 光男
井出 俊一	鈴木 一郎	笠井 啓也	佐々木 賢明	武田 幸久
外山 研次	昭和32年卒	梶原 康敬	斎藤 一郎	片岡 康浩
橋 敬治	阿久津 芳彦	関口 勝	小谷 嘉孝	北村 隆
高田 芳行	依田 恵市	丸山 長資	小林 昭朗	堀 是治
国分 兼一	園田 勲	吉岡 靖隆	庄司 翠	本多 清一郎
植松 貢	桂 守夫	原 幹夫	植木 庄左衛門	野口 文雄
石田 宏	工藤 富司	高橋 健一	森 隆郎	野尻 義雄
日置 隆	細谷 文夫	高尾 俊行	杉崎 秀夫	矢野 彰一郎
柏木 治彦	笹原 孝	黒木 妙子	石岡 龍右	鈴木 功
和井内 徹	渋谷 六郎	佐久間 恒和	丹野 彰	鈴木 庸一
櫻木 輝志	松本 平	須藤 隆司	長谷川 修一	鈴木 良治
昭和28年卒	西田 金誉	青木 弘	長田 守一	和田 高伸
吉川 和夫	石井 孝二	青木 滋夫	長友 良久	昭和40年卒
栗田 吉男	石渡 正夫	石川 好隆	塚田 政弘	稲葉 清彦
石垣 恭弘	村松 勉	倉形 邦英	昭和38年卒	河村 勝弘
石原 健二	池島 敬宜	増田 澄	井野 二陸	岩崎 統一
石田 壽文	竹原 晃	村川 信子	永田 正巳	向井 常雄
村上 全司	竹内 孟	大石 昌弘	吉井 彰子	高橋 志郎
田村 佐重	竹内 昭男	瀧澤 文男	栗田 公夫	佐藤 瑞雄
田村 頌基	東海林 正	谷田部 寛昭	原 正樹	三谷 治郎
徳永 静	藤岡 幸彦	定方 聡博	原田 文雄	山岡 景仁
福島 敏郎	福島 弘之	渡邊 高章	荒谷 作松	上田 輝世
堀 武	網代 良太郎	内田 穆堂	佐野 直道	上野 公雄
鈴木 一成	野村 亀利	難波 純一	坂本 一	清水 博太郎
昭和29年卒	矢作 栄甫	白石 恵一	小松 允	西脇 鉄雄
井上 秀雄		武田 弘	小幡 洋	浅野 勝弘

丹野 隆善	末延 温之	谷島 和夫	昭和57年卒	堀江 里衣子
土田 紘一	羽持 晃	田島 平良	伊藤 和宏	林 由浩
幡野 匡彦	昭和45年卒	嶋村 典和	塩谷 仁	平成5年卒
飯原 打越	永島 一男	湯川 吉美	久松 美樹	岩淵 弘晃
武井 秀彦	加村 尚喜	尾島 光春	宮入 尚史	吉川 将史
有田 喜一	佐藤 宗衛	武安 栄樹	桑折 敬子	小泉 公志郎
高田 菊平	寺田 高德	末木 康行	荒木 洋子	米田 哲也
昭和41年卒	篠崎 勝彦	野原 孝司	佐藤 慎一	平成6年卒
伊藤 英武	小林 満	澤口 孝志	山浦 信介	遠山 岳史
館 敏夫	常木 英夫	澤崎 芳男	小暮 勝彦	清水 孝
丸山 武紀	森崎 正美	昭和50年卒	小椋 幸夫	石黒 香織
宮城 晃	森田 尚	関口 真理	中村 宏昭	平成7年卒
玉應 亨三	瀬戸 博	牛込 淳彦	中村 明裕	岡田 賢識
高桑 豊	成川 憲男	三好 美智夫	田島 みゆき	諏訪 智之
山口 恭弘	滝戸 俊夫	沙澤 日出夫	内田 陽子	谷合 哲行
重田 勲次	中澤 俊之博	上田 賢二	梅田 栄一	平成8年卒
村井 直樹	田中 頌	上條 治夫	末澤 二郎	野地 章平
嶋田 晋廣	土田 久	大川 由明	鈴木 勝	平成9年卒
藤池 誠治	服部 正隆	中島 澄	昭和58年卒	浮谷 基彦
楠 勝行	平塚 良一	中野 功	伊藤 好一	林 秀憲
白龍 美津夫	望月 昭宏	長井 一良	岩崎 好高	平成10年卒
彦田 一夫	昭和46年卒	末森 博文	栗原 清文	伊掛 浩輝
芳崎 弘一郎	菊田 茂	野原 正男	高山 利治	平成11年卒
堀内 進	三宅 久利	昭和51年卒	根本 裕子	関口 晃
堀内 宣秀	小谷 将彦	井之上 佳三	寺嶋 一彦	樋口 孝夫
木村 勲	杉田 康一	下山 誠一	菅原 節子	平野 壮哉
昭和42年卒	浅野 純一	荒澤 康夫	谷田貝 仁恵	平成12年卒
稲川 栄一	丹野 幸久	佐野 勝榮	谷田貝 隆	橋内 誠
永井 紘志	冬室 誠	重盛 正男	中山 佳則	小島 正浩
永田 一雄	島津 学	小林 雄一	長 茂輝	藤田 尚之
岡見 宏道	八木 信雄	内野 好夫	長谷川 潤	平成13年卒
橋本 廣雄	飯田 隆	昭和52年卒	田村 精一	角田 雄亮
古阪 一昭	鈴木 博一	萩原 謙二	飯田 隆久	吉川 賢治
高橋 秀雄	齋藤 政久	栗村 嘉明	立岩 洋	平成14年卒
今田 雅躬	昭和47年卒	古橋 雄二	鈴木 澄夫	星 徹
佐藤 馨	何木 正芳	最勝寺 公英	昭和59年卒	平成15年卒
山下 睦之	駒屋 伸雄	新国 慎倅	古澤 功	村田 純子
山崎 博	山崎 雄三	深澤 豊史	清水 繁	平成19年卒
成田 勝紀	森 伸一	生方 正之	昭和60年卒	伊藤 拓哉
赤坂 洋輔	深澤 康俊	齊藤 孝	石見 勝洋	亀井 真之介
中井 忠男	丹呉 秀博	池田 孝久	飯田 岳之	平成20年卒
長田 義男	津野 岳彦	昭和53年卒	鈴木 義弘	東條 未樹
田中 秀也	飯倉 登美雄	吉田 光夫	昭和61年卒	平成21年卒
榎木 勝己	齊藤 菊夫	五十嵐 博	稲葉 隆史	吉田 隼人
能代田 順久	昭和48年卒	勝亦 章行	小嶋 芳行	平成22年卒
豊田 文江	岡本 雅美	深津 誠	大井 勇治	平野 真央
鈴木 啓輔	加来 文隆	浅川 徹	津田 聡司	平成23年卒
昭和43年卒	関口 優紀	鎌 信弘	那賀 恵美子	伊藤 聡美
宇智田 俊一郎	吉井 康雅	昭和54年卒	萩原 俊紀	稲葉 真史
海上 幸三	後藤 省二	榎本 充男	片桐 正志	春日 龍之
佐藤 彰徳	坂口 信昭	山中 一典	昭和62年卒	平成24年卒
佐藤 精二	山中 操	山本 重俊	加藤 慎次郎	石井 一隆
進藤 宣昭	指田 高好	小笠原 幸道	幾留 孝司	畔蒜 正也
浅井 保雄	重藤 峻一	村井 信次	栗田 直人	教職員
北村 正孝	小宮 清子	太田 延幸	根本 俊寛	櫛 泰典
昭和44年卒	川津 義人	谷藤 善美	塚原 文子	小川 恵三
安藤 純一	大高 由輝	中村 眞理子	昭和63年卒	仁科 淳良
井上 隆	瀧口 誠典	権野 宏明	歳森 幹生	須川 晃資
横山 二郎	中村 宗光	飯沢 美智子	三井 宏	西宮 伸幸
岡本 彬	長谷川 一夫	服部 洋一	森田 孝節	西村 克史
花井 秀之	渡辺 明典	昭和55年卒	村山 竜一	青山 忠
関口 信夫	矢田 智	丸山 博秀	中西 剛	大月 穰
原 幸夫	梶井 敬親	黒瀬 健介	中道 幹芳	長田 洋子
今脇 秀雄	昭和49年卒	小笠原 一恵	平成元年卒	梅垣 哲士
桜井 浩平	岡田 雄二	小笠原 守人	栗田 雅子	平野 勝巳
小栗 勝治	館 徹	森 弘通	黒田 美和子	鈴木 佑典
小田原 豊	久保 隆	多田 康男	平成2年卒	
小林 勉	牛山 仁司	波岡 宣彦	石川 恵子	
新藤 豊彦	元木 英二	木村 昌宏	平成3年卒	
石井 和夫	高本 秀夫	昭和56年卒	穴山 正之	
石山 利男	佐藤 憲一	横山 聖一	高田 昌子	以上669名
大橋 正宜	志村 修司	熊谷 一弘	村原 伸	
田中 通夫	小島 元昭	古屋 実	平成4年卒	
田中 敦	小茂田 英男	今野 直哉	加来 洋子	
八幡 順一	小林 正男	植松 烈平	宮崎 裕子	
望月 正二	小林 文雄	大沼 明	山口 信成	
北島 徹夫	青木 壮慈朗	池田 実	松田 和夫	
堀 昱弘	相澤 貞	有川 俊一	藤池 一誠	

編集後記

東京では近年まれに見る大雪が続き、ちょうど入試シーズンに重なったことから首都圏の大学では対応に追われたようです。幸い、理工学部的一般入試当日は大きな混乱もなく、今年も多くを受験生が物質応用化学科を受験しました。

大学とは普通の企業とは違い、毎年4分の1の人数が新人に入れ替わる、特殊な組織です。だから時代に合わせて常に新しい試みを模索していかなければなりません。伝統は守りつつ、時代とともに変化してもいかななくてはならない。大学にはその両方が求められているのです。

物質応用化学科では今、学生実験や大学院をはじめ、時代に合わせたカリキュラム変更の真っ最中中です。これからの物質応用化学科にご注目ください。

(工化時報編集委員 萩原俊紀)

お知らせ

平成26年度の行事予定

5/31(土) 工化会総会 15:00～

※総会后、工化会ホームカミングデーを開催

7月下旬(土) 一日体験化学教室

8/2(土), 8/3(日) CST オープンキャンパス2014

連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問合せ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(平野 TEL:03-3259-0815, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

小川 誠, 永島一男, 橋本徳子, 須川晃資, 谷川 実,
遠山岳史, 西村克史, 萩原俊紀, 平野勝巳

学生編集委員
2年 田中紫織, 藤田久美子

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>